

# いさご

第28号



2000年 8月  
(財)日本野鳥の会 三重県支部

●真のナチュラルリストをもとめて●高橋 松人 (久居市・副支部長)

自然保護とか環境保全とか、地球にやさしいとか自然を大切にとかいった言葉があちこちに氾濫し、安易に使われすぎる感がある。一時的な流行やムードで語られたり、使われたりしていることが多いようだ。

とにかく、自然保護といえど、内容はともかくとして一般的な支持を受けることは間違いない。総理府や末端行政、各NGOが行った「開発か自然保護か」の各種のアンケート調査の結果をみても、自然保護の考え方が着実に浸透してきていることがうかがえる。岐阜県御嵩町の産廃や吉野川可動堰に対する住民投票、島根県の中海干拓の事業凍結など、各地で継続中、あるいは計画段階の開発の大幅な軌道修正が行われている。

21世紀は自然保護と環境衛生が最大テーマといわれている。日本では1970年代に始まった列島改造もあぶくと消え、全国各地にダイオキシンや環境ホルモンといった有害物質を残してしまっただけでなく、その発生原因が人間の営みそのものにあつたことがようやく理解され、対策が進められている。



カット・北川和則

これからは、壊された自然環境の修復と並行して、置き去りにされた野生動植物と人との共生を真剣に考えていかなければならない。それには、正しい知識が必要であろう。うわべだけの環境保護を叫び、自身の生活を省みないことはあつてはならない。

私の身近に、箸箱を持ち歩く会員がいる。物が豊富な時代に、熱帯雨林の消滅や追いつめられる野生動物に思いをはせながら、できることから何でも実行する、何よりも「心」が緑に染まっているナチュラルリストである。箸ばかりでなく空き缶や弁当屑を拾い集める、そんなささやかなことも環境保全の一つの行動である。

今月の表紙 絵：田中 豊成

目	次
●巻頭エッセイ・表紙の言葉	2
●特集：「里山」を考える	
里山ってな～に？	3
三重の里山はいま…	6
里山保全の試み	9
里山の住民たち	10
●報告とお知らせのページ	11
●会員のページ	14
●探鳥会報告	17
●探鳥会報告・奥付	18

今月の表紙 ☆  
オオタカ ☆  
オオタカは低地の山林で生活や繁殖をします。そのようなオオタカの住む山地は、常に土地開発計画等の脅威にさらされています。全国で多くの問題が生じています。その顕著な例は、愛知県の海上の森が大変有名です。私の住む名張市でも、昨年来よりオオタカが生息している山林を名張市が開発しようとしています。野鳥の会三重県支部や地元オオタカの会などがその計画に反対しております。皆様のご支援やご協力をお願いいたします。野鳥と人との共生がなりよりです。

田中 豊成 (名張市)

特集： **里山**を考える .....

万博が開催される愛知県の海上の森の話題は、毎日の新聞やニュースで目にしない日がないくらいですね。それとともに「里山」と言う言葉もメジャーなものになりました。多くの会員の皆さんが、関心を寄せていらっしゃると思います。でもみなさん、里山ってどんなところですか？なぜ守る必要があるんですか？また、里山の環境保護はよその県の話だと思いませんか？わたしたちの住む三重県にも当然多くの里山が存在し、野鳥のほかたくさん生き物がそこで生活しています。そこで今回は、里山について取り上げてみました。

.....

**里山って、な～に？**

ハヤトくんは、伊勢市に住む小学6年生。タカコさんは、山歩きの好きな元気なお母さんです。ある日の二人の会話を通して、里山についておさらいをしましょう。



探鳥会での「里山イメージスケッチ」より…I.N.さん

ハヤト：おかあさん、海上の森とか、里山とか、このごろよく聞くけど、

**里山って、どういうところ？**

タカコ：昔は、日本人の多くが農民で、田んぼや畑をつくったり、牛や鶏などの動物を飼っていたでしょう。家畜のえさや田畑の肥料は、近くの山の枯れ枝や落ち葉や、林の下草だとか、草地の草だとかを集めて作っていたの。それに、ガスも電気もなかったから、山から切り出した木を薪にしたり、木で炭を焼いて、それを燃料にもしたの。竹やぶからは竹を切り出して生活用具を作ったし、カヤを刈って家の屋根を葺いたりもしたし、山では山菜やキノコや木の実、小川や溜め池では魚が捕れて、大切な食べ物になったし、焼いた炭は町に行けばお金になったから、近くにそういう自然があることは、生きていく上で必要不可欠だったのよ。そういうふうになんかの暮らしと深い関わりのあった身近な自然を里山と言ってるの。

ハヤト：「山」っていうだけじゃないんだね。

タカコ：そう、だから、最近、山という字を平がなにして「里やま」と表記したりしているわね。要は、裏山から田んぼや溜め池、小川や神社の森など、農村部の人たちの暮らしとむすびついた身近な自然を全部ひっくるめてそう呼ぼうってこと。普通、手つかずで、貴重な生き物がいる場所を守ろうってことだけが自然保護だと思ってる人が多いけど、人の営みによって守られてきた自然も大切、という考え方もあるのよ。「里山」は、そういう考え方からうまれてきた言葉なの。

ハヤト：なぜ里山を守らないといけないの？

タカコ：いま、炭や薪でご飯をつくったり、お風呂を炊いてる人はあまりいないでしょう。田畑の肥料は化学肥料だし、牛や鶏のえさだってほとんど輸入で、飼っている家自体少なくなったし、もう、山に入って炭を焼いたり、落ち葉を集めたり、草を刈ったりする必要がなくなったのよ。それで、切られなくなった木がひょろひょろに伸びて、やぶみたいになっているの。農業をする人も減って、里山の多くの田んぼがほったらかしにされ、草や木が生えている。それに、40年くらい前から、山の木をどんどん切って、もっとお金になるスギやヒノキに植え替えたんだけど、外国から安い木材がたくさん輸入されてその木も売れなくなり、それもほったらかしにされることが多くなってたりするの。

ハヤト：そんなふうになると、どういう悪いことがあるの？

タカコ：モヤシみたいな木しかないところや荒れた植林地では土砂崩れなんかの心配があるし、スギやヒノキのないところでは、そのうち山が自然の状態に戻っていくわね。もともと、里山で利用されてきた木は地域によって違いはあるけど、冬になると葉っぱが落ちてしまう落葉広葉樹が多かったの。クヌギやコナラに代表される、人間が利用し増やしてきた木で、切っても根元からまた生えてくる力が強いので、何度も利用できたの。ところが、こういった木は、光が好きなので、誰も切らなくなっ

## 特集：「里山」を考える

て、やぶみたいに暗くなってしまうと生きていけないのよ。そうすると、暗いところでも生きていける木が生えてきて、そういう木ばかりの森になる。

ハヤト：どんな森？

タカコ：近くに神社があるでしょう。シイやカシの仲間や、タブノキ、ヒサカキとか、ヤブツバキとかの常緑照葉樹が生えているわね。昼行っても暗いし、静かでしょう。西日本では気候の関係で、多くの地域がああなっていくのよ。難しく言うと極相林というの。

ハヤト：常緑樹ばかりの森になると、なぜいけないの？

タカコ：もちろん、常緑樹の森も大切よ。だけど、たとえば、ハヤトの好きなカブトムシは、そういうところ好きじゃないでしょうね。里山の雑木林では、人間の手が入って落葉樹の森（二次林）の状態が保たれることによって生きていける生き物がたくさんいるのよ。

ハヤト：落葉樹の森がないと、生き物の数や種類が減るの？

タカコ：もともと、地球がもっと寒くて氷河期が終わったばかりの頃、日本の多くの地域が落葉広葉樹の森だったんだけど、温かくなって照葉樹林が増えてきたので、落葉樹の森に住んでいた生き物たちの居場所がどんどん少なくなった。そこで、辛うじて人の手が入ることで落葉樹林の状態が保たれてきた里山の雑木林にそういう生き物たちが残されている、という考え方があるのよ。

ハヤト：難しくなってきたね。身近な生き物と思っていたら実は貴重な生き物だってこと？

タカコ：冴えてるね、さすがわが息子。貴重だから大切、と言う考えは好きじゃないけど、このごろはついにメダカの絶滅まで心配されるようになってしまったしね。

ハヤト：メダカが少なくなったのは、なぜなの？

タカコ：ハヤト、日本人がお米を今のようにおなかいっぱい食べられるようになったのはなぜだと思う？化学肥料を使っただけじゃなく、お米が作りやすいように田んぼを整備して、水はけを良くし、水路はまっすぐなコンクリートにして田んぼに水を入れたり抜いたりしやすく、掃除もあまりしなくていいように作り変えたからなの。そうすると、メダカなどは産卵する場所がなくなり、田んぼと小川を行き来もできなくなって、生きていけないのよ。農薬も使われるようになって、生きものがたくさん犠牲になったの。それに、耕運機や田植え機などの機械が使いにくい小さい田んぼや山奥なんかの不便なところでは、お米を作る人自体が少なくなって、田んぼが乾ききっていることが多いわね。それに、溜め池もコンクリート護岸されて生き物が住みにくくなった上、外国から持ち込まれたブラックバスなどが放流されて、昔からいた魚が皆食べられてしまったしね。

ハヤト：ブラックバスを放したりするのは悪いことなんだね。

ところで、なぜ田んぼも里山のうちなの？

タカコ：落葉広葉樹の話と一緒に、昔は日本のいたるところに湿地があったのに、人間が開発してすっかり減ってしまった。そこに住んでいた生き物たちが、人間がつくる田んぼを利用して生き残ってきた、という考え方があるの。そういう田んぼも、里山を形作っている大切なパーツと言ったらいいかな。里山には田んぼで卵から生まれ、大きくなったら雑木林で暮らす生き物がいっぱいいるのよ。トンボとかカエルが代表的ね。田んぼや雑木林、溜め池など、全部が生活の場なのよ。そして、そういう小さい生きものを食べることで、ヘビやタヌキやキツネ、イタチなどの動物や、タカなども生きていけるの。人間の都合で田んぼが作られなくなったり、雑木林が無くなったりしたら、どうなる？

ハヤト：里山の生き物たちは、みんな、人間の生活と関わりをもっているんだね。

タカコ：そうよ。人間が里山を維持することで、たくさんの生き物のいのちの輪が保たれてきたのよ。

ハヤト：そうか、里山を守るって、なにが一つのものをまもるってことじゃないんだ。

タカコ：それだけじゃないの。「ふるさと」という歌があるでしょう。あの歌を聞くと、なんか、胸が締め付けられるようなつかしさを感じるわ。日本人がこうやって生きてきました、というようなアイデンティティ。それが里山にあるような気がするの。それに、里山をまもるってことは、ある意味、人間が生き物であることを思い出させてくれるというか、原点にもどるための場所を守ることのよう

な気がするわ。「うーさーぎー追ーいし、かーのやーまア〜」

ハヤト：おかあさん、目がうるんじやってるよ。ぼくにはよくわかんないや。でも、

**現実に里山がなくても人間は生きていけるようになっちゃったんじゃない？**

タカコ：そこなのよ。里山の土地はほとんど個人の持ち物だし、利用されなくなったからどんどん売られて、ゴルフ場や住宅地なんかになっちゃったの。なにしろ身近にあるだけに開発されやすいでしょう。里山を守るっていっても、どうしても利用しなけりゃいけないという必要性がないから、公園にしようとか、ほっておいて、自然に帰るがままにしたほうがいいのか、いろいろ意見が出てくるの。

**ハヤト：守るってどんなことをするの？**

タカコ：まだ、意見がいろいろに分かれているんだけど、要は里山が利用されていた頃の状態に近づけることね。雑木林では、まず人が歩けるように道を整備して、林の地面を覆う藪を切ったり、木にからんだつるを切ったりして、地面に光が当たるようにする。でも、あまりきれいにしすぎると、藪に住む生き物たちを追い出すことになるし、生き物のえさになる実のなるつるは残しておくとか、知識と経験が必要なの。スギなどの植林地では、木を間伐したり枝打ちをしたり。溜め池や使われなくなった田んぼを復元して水辺の生き物たちが住めるようにすることも大切ね。ただ、里山はいわば、人の暮らしと一体の、「文化的存在」だから、人に利用されなくては意味がない。だから、市民のレクリエーション活動として里山の手入れをしようとか、いや、経済的に成り立たせるために木材を使って発電しようとか、農業をやる人に補助金をだして里山で昔ながらの農業に取り組んでもらおうとか、学校教育に利用しようとか、やっというろいろな試みが始まったところよ。でも、すべての里山をそうやって守っていくのは難しいと思うの。例えば、自然が少なくてみな緑に飢えているような、都市に近い里山と、いくらでもまわりに緑があふれている田舎の里山とでは、自然に対する見方がちがうでしょう。一口に緑といっても質に差があるんだけど、地方の人はあまり気にしない。田舎の里山ほど、保全が難しい気がするな。なんと言っても、土地の持ち主に、里山を守って得になるようなことが現実にはないんだもの。苦勞してまで維持しようとはしないのよ。

ハヤト：この近くにも里山ってあるの？

タカコ：町なかから1歩出れば、里山だらけと言っていいくらいよ。ハイキングに行くと、ここが炭焼きのあとよ、って教えてあげたことがあったでしょう。そういうところの木が根元から何本も枝分かれして生えていたのは、かつて炭にするために切られたからなのよ。このあたりでは、シイの仲間やウバメガシとかの常緑樹も炭焼きに使っていたから、雑木林の姿も、落葉樹の林を中心とした一般的なイメージとは少し違うわね。でも、今でもシイタケ栽培用のクヌギやコナラを植えているところは多いわ。そうだ、この間、ホテルを見にいったでしょう。あそこなんか、いまでも里山の景観が保たれているところね。山はずいぶん荒れているけど、まだ炭焼きしている人がいるし、昔ながらの田んぼも残っている。百聞は一見に如かず。私も口先ばかりじゃだめね。こんど、一緒に里山見学といきますか。

ハヤト：えー、僕、家で昆虫採集のパソコンゲームやってる方がいいなあ。

企画・文・編集部(小坂 里香)

**参考文献：里山を座学したい人のために…**

- 里山を考える101のヒント (社) 日本林業技術協会編 東京書籍… 里山について多角的な見方ができる本。巻末の参考文献リストも重宝。
- 里山の伝道師 伊井野 雄二著 コモンズ… 赤目の森誕生のいきさつから現在にいたるまで。そして里山の未来を考える本。
- 自然を守るとはどういうことか 守山弘著 } 農文協… 自然の歴史と人間の歴史のマッチングから
- 水田を守るとはどういうことか 守山弘著 } 新たな視点が生まれる…「目からウロコ」の本。
- 里山の自然を守る 石井実 植田邦彦 重松敏則著 築地書館… 生態学から考える里山・東海地方の湿地の価値。
- ケビンの里山自然観察記 ケビン・ショート 講談社… ユーモラスな文体で身近な宝物に気づかせてくれる1冊。すぐにでも里山にでかけたくなる…？

三重の里山はいま…会員アンケートから…

ある日の探鳥会で、参加者のかたに一般的な里山のイメージをひとこと言ってもらったところ、その答えは「藪」「家の近くの山や川や森」「柿の木」「小さい時の遊び場」「オオタカの住む雑木林」「ため池」「たんぼ」といったものでした。どの答えも、漠然とではあります。里山というものの一面を捉えていると思います。里山とは、様々な複合的要素をもった身近な自然の総称なのです。



探鳥会での「里山イメージスケッチ」より…R.Nさん

さて、里山を考える上で、その地域性は大変重要です。というより、問題のすべてと言っても良いのではないかと思います。里山の存在は、その地域の暮らしと関わっており、保全を実際に行う主体も地域の住民だからです。そこで、いろいろな地域に住む会員の方々が、里山の事をどのように考えておられるか、アンケートをとらせていただきました。アンケートの対象は理事経験者を中心に、任意に選ばせていただき、14名の方からご回答いただきました。特に里山に対する思いの強い方は、その思いをお時間を割いてつづってください、それをここですべてご紹介できないのが残念で、お詫び申し上げます。

地域で「里山」に違いはあるか？

三重県は南北に長く、気候風土も多少異なっているので里山にも地域差があるのではないかと思います。皆さんのお答えでは、大きな地域的特徴ははっきりとわかりませんでした。東紀州では山が海までせまっております、平坦で広い耕地が少ない、という地形的特徴をあげていただきました。北勢・中勢地域では、クヌギ・コナラを中心とした2次林と植林地、そしてたんぼ（棚田）や溜め池、用水路といった、いわば典型的里山のイメージをお答えいただいた方が多かったのですが、津地区の方からご指摘があったように、松枯れが進んでいるという点が特記されるのではないのでしょうか。一方、伊賀地方ではアカマツが比較的残っており、マツタケが産出すること、カンアオイが自生し、ギフチョウの発生が見られるということです。他の地域との違いは、内陸の盆地であり、寒暖の差が大きいことも関係していると思われます。三重県の重要な農産物である茶畑やミカン畑の存在は、多くの地域の里山に当てはまることでしょう。

里山を構成する樹種の中で、どなたも指摘されませんでした。地域によって薪炭木に違いがあるのではないのでしょうか。ご存知のように、紀伊半島はウバメガシを原料とする備長炭の産地ですね。里山の景観も、薪炭の材料とする木の違いによって変化があると思われます。

地域の代表的な、または回答者にとって身近な里山とは…？

- 次のような地名が具体的にあがりました。もちろん、三重の里山のごく一部ではありますが、ご紹介しておきます。
- 北勢地区…四日市市内四郷地区、桜地区曾井山など。多度町内の多くの山（但し過去形）。
- 津地区…津市神戸、安濃町箕内池周辺、安濃町内多から津市にかけての丘陵、津市北部から河芸町にかけての丘陵。
- 松阪地区…ちとせの森、白米城、勢和村烏岳の波多瀬側。
- 伊賀地区…名張市上小波田、上三谷地区。
- 南勢地区…玉城町日向、伊勢市鼓ヶ岳北側山麓、勢田町から佐八町、上野町にかけて。
- 東紀州地区…紀伊長島町下河内地区、海山町船津上里地区、尾鷲市小原野地区、三木里地区。

里山にたいする思いの濃淡により、人によって観察の頻度は違いますが、それぞれ、頻繁に、あるいはときどき足を運んで野鳥観察や調査活動をされているということです。中には自宅近くのため、四六時中フィールドとして観察している、というお答えもありました。

以前と比べ環境の変化はどうか、  
開発などの影響は？

多くの地域で変化が見られます。顕著なのは道路建設による里山の分断、それに伴う宅地造成などによる開発の影響です。鳥類に関しては、宅地化により都市鳥（スズメ・ドバトなど）の増加が見られるというご意見もありました。農業者の高齢化により、耕作放棄による水田の荒廃や、果樹園への転用による農薬の影響で生態系が変化しているのではと懸念する回答もありました。また、山を崩して土砂を採取したあとに公共施設や道路の計画（中勢バイパスなど）があつたり、里山そのものが公園として整備されたりという、公共事業による開発も相変わらず行われています。ゴルフ場が作られたりした場所もあるようです。また、開発などの影響が特になくても、不法投棄のゴミの増加や、森のブッシュ化、竹藪の拡大、常緑樹林への遷移といった環境の変化をあげていただきました。一方、とくに大きな変化のない場所でも、野鳥の種類や個体数が減ったという印象があつたり、オオタカが繁殖しなくなつたりしているようです。

一部の回答にもありましたが、土砂採取によって里山環境が破壊される例が増えていきます。松阪市近郊の里山でも大規模な土砂採取が行われていますし、中部国際空港の埋め立てがらみの土砂採取が県内の随所で大きな環境問題となっていることとはご承知のとおりです。

里山（環境）の保全について

アンケートでは、ほぼ全員が里山の保全の必要性を認めています。その理由としては、「地域の文化だから」「(多様な)種の保全の上で必要な場

所」「安らぎの場所だから」「循環型の生活パターンのモデルとして」「地域の自然と人の共存のあり方を考える一つのモデルとして必要」「(人間)教育の場として」「二酸化炭素を吸収する緑地としても貴重」などのお答えをいただきました。ただ、必要性は認めながらも、樹林については産業構造の変化により必要性が低下し、極相(照葉樹)林に遷移して行くのはある程度しかたがない、というご意見もありました。おっしゃるように、すべての雑木林を何らかの方法で2次林のまま保全することは、事実上不可能なのではないでしょうか。その限界を知った上で、是非残したいところを残す努力をする、ということになっていくのだらうと思います。

しかし、回答者の中で、保全活動に関心を持ちながらも実際に何らかの活動に関わっている人はほんのわずかでした。市民による里山保全活動自体、県内ではまだまだ事例が少なく、試行錯誤の連続のようで、実際になにかするのはむずかしいのが現状のようです。

なにが里山保全を妨げているのか、ということに関しては、次のようなご意見をいただきました。

まず、里山の土地の多くが民有地であること。相続税その他の負担のために開発業者に手放す例があり、個人がまとまった面積を有している場合ほどその危険性が高い。里山の環境的価値についての理解がなく、保全活動そのものに地主の同意が得られない。また、山間地農業が経済的に成り立たないため農耕を放棄する地主が多く、里山の荒廃に拍車をかけている。それに対する行政の支援体制もない。

参考：このアンケートの項目は以下のとおりです。

- Q 1、あなたがイメージする「〇〇地区の里山」とは、どんなところですか？自由にお書き下さい。もし特異的な動植物や風物（人との関わりなど）などがあれば、それについてもお願いします。
- Q 2、身近にそんな里山がありますか？差し支えなければ、具体的な地名も教えてください。
- Q 3、その里山を現在観察のフィールドにしていますか？また、していたことがありますか？
- Q 4、その里山は過去に比べ環境の様子、野鳥の数や種類などに大きな変化がありますか？それはどのような内容ですか？
- Q 5、その里山に現在、開発などの存続の危機やそのほかの問題がありますか？具体的に…。
- Q 6、里山環境の保全についてどう考えますか？（必要性、可否、その理由など）
- Q 7、保全措置が必要と考える場合、何が保全の大きな阻害要因だと思いますか？いくつでも具体的に…。
- Q 8、里山の保全活動に関心がありますか？また、実際に何か行っていますか？
- Q 9、里山の保全を行う場合、どのような方法がよいと考えますか？（行政への働きかけや具体的政策、市民の参画のあり方など具体的に…。）
- Q 10、里山の保全に野鳥の会（三重県支部）はどう関わって行くべきだと思いますか？



## 里山保全の試み～「赤目の森を育てる会」(名張市)について

名張市の「赤目の森を育てる会」は、里山の実践的な保全活動を行っている、全国でも有数の活動拠点です。事務局をなさっている伊井野雄二氏は当支部の会員であり、活動の核となっている「エコリゾート赤目の森」の支配人さんでもあります。ここでは、これまでのページで考えてきた「里山の保存・活用」に対する考え方の一つを具体化したものとして、「育てる会」の活動の一部をご紹介します。

**伊井野 雄二さんからのメッセージ**…大規模開発に反対といっても、荒れていく緑をだれが面倒をみるのかという疑問を胸に、エコリゾートという小さなペンションを拠点に里山保全運動に取り組んできました。寄附や募金のみで環境を守るのではなく、その守りたい自然を観光や学習の資源として「活用」することを始めたのが、エコリゾートであり、赤目の里山を育てる会の取り組みでした。過去三重県支部の忘年会や観察会などで、ご利用をさせていただいておりますが、今後も益々おつきあいをさせていただきたいと節にお願いをする次第です。

### 「原風景」を次の世代に引き継ぐために

赤目の里山に、仕事として関わるようになって、早や20年が過ぎようとしています。最初の10年は、里山に抱かれた「診療所」の事務の仕事しながら、患者さんたちと一緒に生活して、健康に生きるための方法や人生観などを学び合いました。

その後の10年は、この里山にゴルフ場建設計画が明らかになり(その内容は夏秋編に収録)、大規模開発の代替案(オルタナティブ)としてのエコリゾート赤目の森を地元の人たちとともに作り上げて、守り育てた期間となりました。そして、ほんの3年前にはゴルフ場計画が白紙撤退した後は「産廃場」がくるといわれた通りに、産廃場計画が再発し、受け身ではこの地域の自然は守れないと、「ナショナル・トラスト運動」を方針に掲げる赤目の里山を育てる会を設立し、現在に至っています。ゴルフ場計画阻止での私達の実績と、産廃場が抱えている数々の問題は、この小さな村の近くに産廃場を作らせない、という住民の意志を明確にさせて、計画の撤廃を勝ち取ることができました。その後は、育てる会でその予定地である休耕湿地田に「トンボ池」や観察小屋を設置するなどの活動が

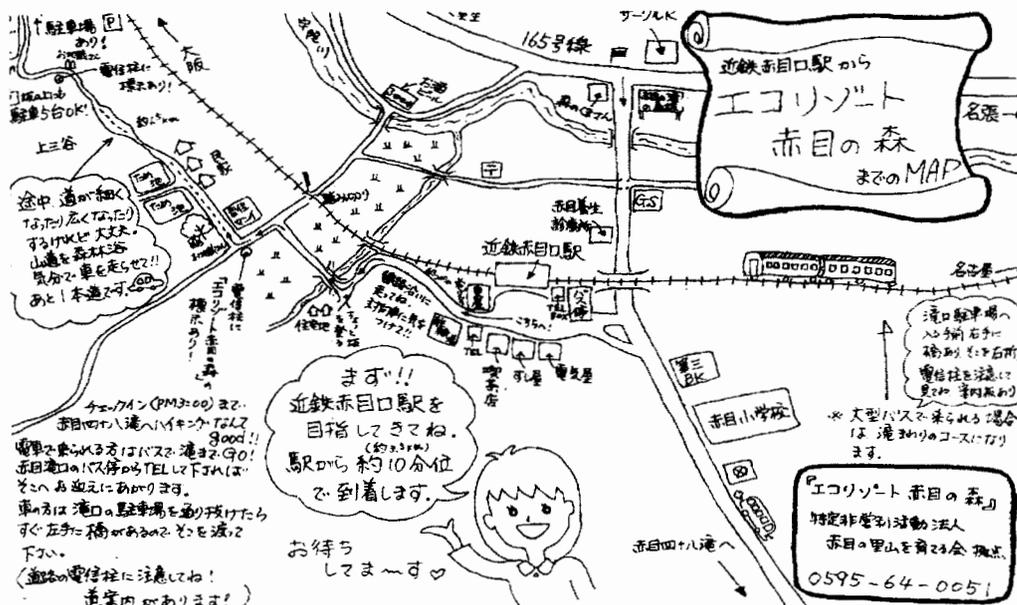
実を結び、大規模な開発計画は起こっていません。

里山を育てる会の日々の活動は、毎月の里山に親しむ様々なイベント(自然観察会や調査、伐採など)の実施、里山の中にある「里道」の保全整備、トンボ池や観察小屋、トムソーヤの小屋や広場の管理などです。また、トラスト地内の除伐採や薬木の植林などの仕事もあり、落葉広葉樹の伐採後の活用のための「シイタケ作り」や「炭焼き」なども積極的に行い、里山の経済的な再構築を視野に入れています。

また、98年12月に施行された特定非営利活動促進法により、99年4月1日に三重県第1号として認証を受けて、法人登記を完了させることができました。それにより、トラスト地や車両の所有権を法人名義にすることができただけでなく、法人としての事業化にも扉を開くことができ、確実に新しい時代の要請に応える体制は整いつつあります。

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会  
理事・事務局長 伊井野 雄二

(伊井野さんのお許しを得て、赤目の森のホームページよりお書きになった文章を一部転載させていただきました。スペースの関係で以下省略させていただきます。)



## ●里山の住民たち●

### その1 「カエル」

里山を代表する生き物に“カエル”があげられます。

早春の2～3月ころ、アカガエルは冬眠から目覚め、谷合いの田んぼの水たまりや湿地に丸いゼリー状の卵を産みます。このころ、晴れた日が続くと水が干しあがり、せっかく卵を産んでも無残な姿になっているのを見かけます。

一昔前なら、こうした所はいつもジユクジユクと山からしみだす水で湿っていて、アカガエルにとって格好の産卵場所でした。今では、大型機械をいれるため、作業しやすいように水はけのよい田んぼになってしまいました。

つまり、コンクリートの用水路や暗渠などの田んぼの工事によって冬に田んぼが完全に乾燥してしまうのです。また、圃場整備に加えて、稲作の時期が早まっているのもアカガエルにとっては痛手です。運よくオタマジャクシになったとしても、代掻きの時期と重なり、大型耕作機械が入ることによって生存率は更に低くなります。

その他、化学肥料や農薬などの影響で、アカガエルをとりまく環境は悪化の一途をたどっています。とりわけ、最大の危機は、田んぼや雑木林が住宅やゴルフ場として開発され、生息地が破壊されているということです。

アカガエルにとって、産卵場所である田んぼや湿地と生息、冬眠するための森の両方がなくては生きてゆくことはできません。

また、田畑にいるトノサマガエルやアマガエルは虫を食べて害虫駆除の役をしつつ、これらもアカガエル同様他の生き物のエサとなっています。

これらのカエルがいなくなると、カエルを餌とするヘビ、タヌキ、サシバなどの生き物にも影響がでることは明らかです。

カエルは生態系の重要な底辺を支えているといえます。

西村 泉（玉城町）



### その2 「サシバ」

サシバは中型のタカであり、三重県では、夏鳥として4月頃渡来し、繁殖の準備を始める。4月下旬頃には求愛行動が見られ、水田が緑の海となる6月に雛を育てる。サシバの餌はヘビ・カエル・トカゲ・昆虫などで、里山生態系の頂点にいる動物である。

秋には、伊勢でも数十羽のタカ柱をつくり、次々、流れるように多くのサシバが渡って行く。1日に千羽もの渡りを見た日の感動は忘れられない。バードウォッチャーなら誰でもが見たいサシバの渡りだ。そんなに数の多いサシバだから、オオタカなどのように絶滅が心配されるワシ・タカとして注目されることはあまりなかった。しかし、里山の自然に関心が寄せられるようになった今、サシバの減少が危惧されるようになった。

私は1995年から伊勢でサシバの生息調査をしているが、1982年頃、川北俊夫さんによって行われた結果と比べると、営巣数は激減している。かつての営巣地を見て歩いたが、休耕田との関係が大きいと思われる。水田耕作が放棄され、草やハンノキが育ち、乾燥化が進むとサシバは来なくなるようである。水田が湿地としての機能を果たせなくなると、餌が充分とれなくなるからではないか、と思う。

私のフィールドでは、最近、水銀灯に集まる虫が減少している。また早春、アカガエルの産卵がほとんど見られなくなった。農家の人はヘビが減ったと言う。

サシバが営巣している所は、山田と言われる経済的には見合わない農地である。その担い手は高齢者で、いつ耕作が放棄されるかわからない。また、後継者もないというのが現状だ。

サシバの壮大な渡りが見られなくなる日が来るかもしれない。将来、「20世紀には伊勢でも、一日に千羽もの渡りがあったんだよ！」と、言われることがないように願ってはいるが…。

吉居 瑞穂（伊勢市）

特別企画：講演会「渥美の自然とその保護活動  
—ゴルフ場、農免農道、空港土砂取り問題などから—」



カット・平井正志

講師～渥美自然の会  
大羽 康利氏

保護部ではこの9月10日(日)に、渥美半島で長年自然保護活動を行っておられる「渥美自然の会」の大羽康利さんの講演会を企画しています。

### プロフィール

大羽さんは愛知県赤羽根町在住の高校の先生。渥美半島の自然に詳しく、渥美自然の会を主宰されています。毎年サシバの渡りの時期には、自然に関する講演会を開いておられ、鳥類標識調査員(バンダー)としても活躍されています。

愛知県渥美半島は、バードウォッチャーにはサシバの渡りやシギ・チドリのメッカ・汐川干潟で、また植物ではシデコブシの自生で有名ですが、今回、大羽さんには、この渥美半島のすばらしい自然について紹介していただきます。

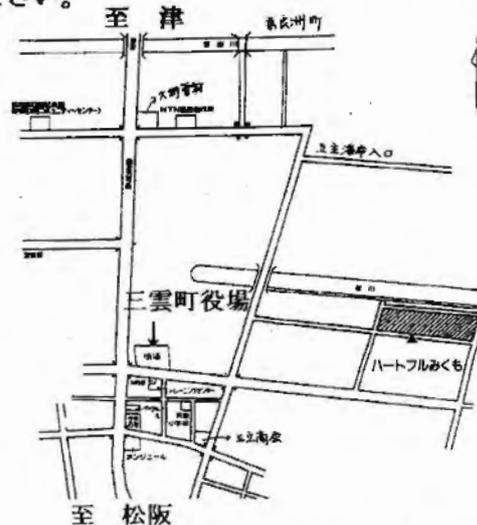
また、渥美半島も農道建設、伊勢湾口道路建設等自然破壊の問題が山積しており、合わせて、これまでのゴルフ場計画、農免農道、空港土砂取り問題などに対する自然保護活動についてお話いただきます。

会員の方はもちろん、一般の方もご参加いただけますので、野鳥や自然、自然保護に関心のある方とお誘いあわせの上、多数ご参加ください。

日時：2000年9月10日(日)  
13:30～15:30  
(五主海岸探鳥会解散後)  
場所：ハートフルみくも スポーツ文化センター  
(一志郡三雲町菅原 2678 Tel 059856-6611)  
右図をご参照下さい。

問合せ先：西村 泉(保護部)

Tel



2000年度第2回三重県支部理事会（2000.7.16, サンライフ松阪）

1. 「みえ・スカイフェスタ2000」について《企画部》  
◇今年秋に開催される「みえ・スカイフェスタ2000」での鳥の写真展示について協力要請がきている。  
◆どんな写真があるか、7月末までに橋本企画部長に連絡する。
2. 「平成12年度環境創造活動資金助成金」を得ることができた「自然環境保護地域調査と講習会」の講習会について《保護部》  
◇助成金はパンフレット作成や講習会に使う。  
◆講習会予定  
・9月10日（日）三雲町五主での探鳥会の後に開催する。・場所未定  
・講師 渥美自然の会 大羽氏 ・対象 会員を主とし、自然関係団体や一般にも呼びかける。
3. 「みえ出前トーク」について《事務局》  
◆「みえ出前トーク」を今年申し込むことについて、特に希望が出なかった。申し込みの期限がまだあるので、希望が出たら、再度検討する。
4. 「野鳥講座」について《企画部》  
◆日時は未定だが、鳥獣保護法関係で行う予定。
5. 名張市のオオタカ問題について《保護部》  
◆要望書を名張市長と三重県知事に出す。
6. 三重県支部の運営と体制について《事務局》  
◆人事、運営等について、次回理事会に事務局から具体的な案を提示する。  
◆役員の理事会交通費と出張旅費を支払うことが可決され、支部長、事務局長、財務担当で検討して、案を出すことになった。
7. 探鳥会について《理事提案》  
◇運営面、企画面、内容で問題のある探鳥会がある。  
◆問題点をリーダーに知らせ、改善を求める。
8. 安濃川河口砂州の除去工事について《事務局》  
◇情報公開を請求し、資料を見た。平成11年度の工事は今まで言っていたのとは別の工事の形をとっていた。  
◆生物や環境の継続的な調査を求める意見書を県に出す。
9. 各部、委員会、事務局の活動状況報告  
【研究部】 三重県の「平成12年度鳥獣保護区設定効果調査委託」の契約締結  
【保護部】 ◇自然環境保護地域調査について ◇しろちどり繁殖保護について  
◇木曾川河川敷公園化問題について：長島町に要望書提出  
◇伊勢市矢持町産廃建設問題について ◇コアジサシ繁殖地保護について  
【企画部】 ◇津市中央公民館のバードウォッチング講座、などについて  
【編集部】 「しろちどり第28号」の原稿締め切り日について  
【野生生物保護委員会】  
◇キジ、ヤマドリ等の放鳥の状況やシカ、サル保護管理計画などについて、県に話を聞いた。  
【事務局】 ◇三重県支部の携帯電話 090-1566-6010（次ページ「事務局より」参照）

\*文中◇は提案・協議、◆は決議をあらわしています。

## 事務局より

## ●事務局の電話について●

これまで検討を重ねてきましたが、三重県支部で携帯電話を契約しました。

電話番号は **090-1566-6010** です。普通は、事務局・木村京子が持っていて、**月～土曜の9:00～18:00の間通話できる状態**にします。ただし、木村が自動車の運転中や電車等に乗車中、会議中、調査中などには、運転中を知らせるアナウンスになっていたり、電源を切っていたりしますが、ご了承願います。電源を切っている時は、留守番電話に接続していますので、メッセージを入れてください。

※通話できる時間帯等については、今後様子を見て変更することもあります。変更する場合は、支部報「しろちどり」等でご連絡します。

## 企画部より

## 1) 飛んでいる鳥（翼を広げている鳥）の写真募集

「空」にちなみ、「みえ・スカイフェスタ2000」第5回パラシューティング世界選手権伊勢志摩大会—2000年10月1日（日）～22日（日）—会場に鳥の写真を展示することになりました。

4切りサイズ20枚展示の予定です。写真が不足していますので、「飛んでいる鳥」の写真をご提供いただける方はお知らせ下さい。引き伸ばし費用等は支部で負担いたします。

## 2) 「里山—さとやま」の展示物を一緒に作りませんか？

企画部で里山の展示物を作る予定です。内容は、里山に住む鳥やいきもの、里山の景観、里山の現状などを写真やパネルで紹介するものです。里山の鳥やいきものの写真をお持ちの方、里山に関心のある方、展示物づくりが好きな方、ご連絡下さい。

## 3) バードウォッチング案内人・ミニ研修会を行います。

今年のリーダー研修会を前号の「しろちどり」で7月とご案内しましたが、さしあたって1時間程度のミニ研修会を下記探鳥会の終了後に企画しました。リーダーとしてご活躍の方、これからやってみようという方は是非ご参加下さい。3回のうち、どれにご参加いただいてもけっこうです。お持ちの方のみ、「リーダーズカード」と「案内人の手引き」をご持参下さい。

●10月8日（日）名張川探鳥会 ●11月12日（日）局ヶ岳探鳥会 ●12月23日（木）安濃ダム探鳥会

以上、いずれもお問い合わせ・申し込みは企画部・橋本祐子（TEL 0596-23-2725）まで…

## ●事務局日誌●

- 5月12日（金）阿山町音羽休猟区設定計画に対する意見の提出（阿山町長宛）  
 14日（日）バードウィーク行事としてテグス（釣り糸）拾いを四日市市と松阪市で行った。  
 17日（水）伊勢市豊浜西銃猟禁止区域の期間更新・設定変更に対する意見書の提出（伊勢市長宛）  
 27日（土）2000年3月15日付けで提出した「高松海岸の保全と臨港道路霞4号幹線建設計画に関する要望書」に対する回答が、四日市港管理組合技術部企画課長から届く。
- 6月5日（月）磯部町神路ダム銃猟禁止区域の設定に対する意見書の提出（磯部町長宛）  
 6日（火）「平成12年度鳥獣保護区設定効果調査委託」の契約締結（三重県知事と）  
 " 安濃川河口の砂州の除去に関する工事について情報公開を求める（三重県知事へ）  
 7日（水）伊賀町東部休猟区設定に対する意見書の提出（伊賀町長宛）  
 8日（木）上野市東部休猟区設定に対する意見書の提出（上野市長宛）  
 9日（金）大宮町森林公園鳥獣保護区期間更新に対する意見書の提出（大宮町長宛）  
 27日（火）6月6日の情報公開請求に関する開示（三重県津地方県民局で）
- 7月16日（日）日本野鳥の会三重県支部2000年第2回理事会（サンライフ松阪にて）  
 21日（金）名張市葛尾休猟区設定に対する意見書の提出（名張市長宛）  
 29日（土）～30日（日）富山県で日本野鳥の会中部ブロック会議開催（市川副支部長出席）

### 紀北鳥信

保平長三 (尾鷲市)

冬の間港にあんなにたくさんいたカモメ類(中に少数ではあるがシロカモメも見られた)は全く見られなくなり、アオサギやコサギ、それにゴイサギも数が少なくなりました。例年春先には観察される現象です。代わって子育てをする小鳥たちが活発に飛びまわるようになります。3~6月の間に観察した小鳥たちの繁殖の様子をご報告します。

#### ○イソヒヨドリ

名のおとり磯の住人(鳥)だったこの鳥が、町の中で子育てをするようになりました。自宅周辺(半径約700m)では、3組の繁殖を確認しました。このうち2組はビルの換気口に、あと1組は自宅前の三階建て住居の軒下に営巣し、ともに巣立ちまで観察できました。面白いことに自宅前の場合、東側の軒下に営巣しましたが、同じこの屋根の西側にムクドリが営巣したことです。ほとんど毎日観察しましたが、両者が争うような様子は見られませんでした。我が家の10坪ほどの菜園に採餌に来てはミミズ、トカゲ、ケムシ等を捕っていました。巣立ちした幼鳥が菜園に飛んできてトカゲを追っかきまわしているのを、親鳥が見守っているのも観察できました。このときの鳴き声(幼鳥が親を呼ぶ声だと思いますが?)、オオヨシキリのさえずりの声によく似ていました。どうでしょうか。「イソヒヨドリが町の中に進出してきている」ということをよく聞き

ますが、どの程度内陸部に入りこんでいるのか、データをとったら面白いだろうなと思います。なお、7月末には自宅周辺には見えなくなりました。

#### ○ヒメアマツバメ

営巣、繁殖を確認している場所が2箇所あります。そのうちの1ヶ所、市役所庁舎別館の3階の庇受けの間(幅約30cm・この構造は南面で8個ある)、このうち5個で本種特有の出入り口に羽毛をつけた巣が各2~3個作られ、延べ18巣が数えられ、それぞれで繁殖しています。正確な数はわからないが、1巣に雛は3~5観察され、このうち3巣で各1羽の雛が地面に落ちて死んでいるのも観察しました。本種はいつ頃ここへ来るのか、またどこから来るのかよくわかりませんが、市職員の話では「越年している」とのこと、今冬は確かめたいものです。現在、私の初認は3月中旬です。雛の巣立ちは一度だけ(5月中旬)観察しましたが、シーズン中に何回くらい育てるのかなどは観察していません。7月上旬現在なお育雛が続いています。

#### ○ツバメ

本種の初認は3月下旬でした。現在自宅近くで2ヶ所営巣しています。1巣雛数4、もう一つでは5でした。今は3回目の育雛のようです。町を歩いていると、かなりの数の本種を見かけますが、なかなか巣を見つけることが出来ません。

(追記) 当地ではコシアカツバメを見かけません。どんなところで棲息し繁殖するのでしょうか。ご教示いただけ

れば幸いです。

#### ○イワツバメ

町内の川にかかる鉄橋の下付近でもかなり観察されますが、大規模に生息しているのは海山町銚子川にかかるJR鉄橋下です。河川敷に立つ橋脚の間(約40m、この間に3個の区切り壁がある)、区切り壁の付け根ごとに巣が2~3個ずつ作られていて、合計約60巣が数えられます。(この他に壊れた物や、使われていない巣がかなりある。なお川の流れの上の区切りには巣は作られていない。)鳥数は1日平均200羽を数えます。1巣ごとの育雛数は2~4で、2羽の巣が最も多い。巣立ちそのものは観察していないが、幼鳥と思われる個体が20羽ほど鉄橋の柵に集まってとまっているのを3度観察しています。ここは、すぐ下が土石集積場となっていて、その水たまりに本種が多数おりて泥をくわえて飛び立つ様子がよく観察されます。河川敷は原野(編集部注:草地のこと?)の部分が多いので、棲息や繁殖の適地となっているのでしょう。

なお、鉄橋にはスズメやドバトが住み着き、繁殖もしているし、下の原野ではウグイス、ホオジロ、カワラヒワが繁殖しているのも観察しています。

(編集部注:ヒメアマツバメは、最近分布を広げている留鳥です。コシアカツバメやイワツバメの古巣を利用して繁殖することが多いそうです。もしかしたら保平さんの観察されたヒメアマの巣も、以前コシアカが使っていたものかも…?)

高層湿原の夏

平井正志 (安濃町)

前々から登りたいと思っていた平ヶ岳に登って来ました。尾瀬の北にある山です。山の中には避難小屋すらなく、行程が長いのでテントでしか行けなく、少しためらっていたのですが、なんとか無事に登ってきました。頂上は名前の通り平らな草原で、あちこちに湿原や池があり、ワタスゲの白い穂が風に揺れ、ヒメシャクナゲ、ツルコケモモ、キンコウカ、チングルマなど尾瀬をそのまま山の上に上げたみたいなのです。まだ大きな雪渓が残っていて、雪渓の解けたあとから、花が咲いていました。登山者も少なく、ゆっ

くりと山を楽しみました。誰もいない草原でぼっとするのもよいものです。鳥は残念ながら、あまり多くありませんでしたし、登っている最中は余裕もありませんでした。しかし、頂上ではウソ、オスのウソの喉は見事に鮮やかな赤で、冬にこのあたりで見るとは全く違います。カヤクグリがヒナに餌を運んでいるのも見えました。アマツバメが頭のすぐ横を通過し、ものすごい音がしましたが、ハリオアマツバメかアマツバメかわかりませんでした。この夏、もう一回くらい山に登りたいと考えています。



サンコウチョウとの出会い  
斎藤加代子 (津市)

7月の企画部会の後、松阪のNさんの情報でサンコウチョウがいるという「ちとせの森」へ向かった。森に入り坂を登って行くと早速、サンコウチョウの音が響いた。暑さを忘れレンズをのぞくが溪は青葉に覆われ、声はすれども姿は見えぬ。諦めきれず溪に下りて行くとギーギーッとコゲラの声を荒くしたような鳴き声が続く。見上げる大木の枝に小型のタカのような鳥、金色の目、お腹は白と黒茶の縦縞、ふくろう？これを追うように飛び交う細身の小さい鳥は？茶の尾羽をぐっと開き飛ばす、目と嘴は白っぽい淡青。サンコウチョウのメス！Oさんが叫んだ。眼前の枝に梢に、2、3羽がひとしきり姿をみせてくれた。

連載・ポーボー日記 其の参

8月〇日 暑いときはトリもヒトも昼寝。

9月〇日 バードハウスを作る。シジュウカラ用は入り口が直径28ミリにすると物の本に書いてある。30ミリではなぜいけないのかなーなどと思いつつやっぱり28ミリの穴を開ける。僕はマニュアル人間なのかもしれない。

出来上がってみると我ながらなかなかの出来栄で庭に吊るすのがもったいなくなってしまう。家で飾っておくことにした。

10月〇日 コクガンを探しに五主海岸に出かける。鳥に興味を持ったきっかけがこの鳥であり好きな鳥の一つでもある。群れでえさをついばむミヤコドリを見ることはできたがコクガンはそう簡単にはみられるものではない。ミヤコドリが見られたことで善しとし、引き上げる。又見られることもあるだろう。

12月〇日 年末恒例、安濃ダムのオシドリ探鳥会に出かける。オシドリ以外にもワシタカ類や、珍しいカモ類を見られるのも楽しみであるが、他にも目的がある。それはリーダーHさん手作りの来年のカレンダーをいただけることである。細密なペン画の鳥は見ていて飽きないし、ちょっとした解説が、これまた興味深い。そのせいか、この探鳥会は年を追う毎に参加者が増え、盛会になっていく。その分越冬するオシドリが年毎に減っていくような気がするのは残念だ。

日々の出来事を日記の形で思いっくままに書いてみましたが、内容のばかばかしさに我ながらあきれいています。途中で止めずに最後まで読んでいただいてありがとうございます。 橋本 富三 (津市)

◆次回は番外編掲載の予定です。お楽しみに…橋本さん、よろしくね。(編集部)

しかし、オスや巣は見えない。大きな鳥がようやく飛び去り森は静かになった。

車に戻って図鑑を見ると、フクロウらしきはアオバズク、ギョギョは三光鳥の地鳴き、雌も雄のように鳴るとある。本居宣長のお墓が在るからこの森は消えないだろう。長い尾の飛翔も見たい。この夏、三光鳥は私のベストバードになった。



マウンテンバイク

今村 禎 (伊勢市)

2年程前、マウンテンバイクを買った。まったくの衝動買いである。娘の自転車を買に行き、ついでに買ってしまったのである。それ以来、真冬、真夏をのぞいきサイクリングに行くようになった。(買った手前、乗らないと妻に怒られるので..) 最初は、10Kmも走行すると息があがっていたのが、少しずつ距離も延び、伊勢から志摩町御座まで行きフェリーで浜島へ、そして南勢町を走り抜け、剣峠を越え伊勢に戻って来るという、それまでは考えもしなかった距離を自転車で走ってしまう

のは、我ながら驚きである。それから100Km前後のコースを何度か走行しているが、いつも感じるのが、空気の違いである。車の少ない山道では、空気は澄み、輝いて見えるのだが、一転、幹線道路に出ると、熱気と埃でとたんに輝きを失い濁って見え、走るのもいやになるのである。普段どれだけ空気を汚しているのかを自転車に乗る事により実感するのである。以来、出来る限り車は避け、探鳥会も可能な限り自転車での参加を心掛けている昨今である。

鳥信・短信・ぴーちくばーちく

●Eメールアドレス公開/お便りお待ちしマース (´o`) \*マナーを守って楽しくメールのやり取りをしましょうネ。

◎野鳥の会に入会してやっと1年半になろうとしています。文科系人間の私、ひたすら我が道を行くがんこ者です。楽しいメールをお待ちしています。

青木 恵子

◎津の斎藤加代子です。私のフィールドは津駅西の津借楽公園です。ほとんど何もいない日もありますが、今年は、梅園に大きなトラツグミがツグミ達といたり、3月に降るようなアトリの群の飛翔を見たり、大樹の梢に6羽のアオバトを見たりしました。

斎藤 加代子

◎南島町神前浦在住の嶋田です。家内と野鳥観察を楽しんでおります。ド田舎なもんで、楽しい情報交換が出来れば趣味がさらに深まって今より豊かな心で余暇を過ごせるようになると思います。みなさん宜しく願い申し上げます。

嶋田 春幸

●夏鳥情報 岡崎 幸三 (四日市市)

○オオヨシキリ 5月8日

近くの小さなアシ原に来て啼いています。着いてしばらくのうちは電線や屋根の上などに姿を現して啼きます。毎年7月1日に地区の草刈りがあり、その日まで、昼も夜も啼き続けています。

(昨年初認は5月11日) 現場は、近鉄霞ヶ浦駅のすぐ西。まわりには家が建てこんできて、「こんな町の中に来なくても」と思いながらも、その声が聞ける2~3か月の間は、幸せな気分浸っているのです。

○アオバズク 近くの神社で営巣。

○ホトトギス 毎年空を啼いて通過します。

来年からは初認日がわかるように努めてみます。

\*全会員に呼びかけてお返事下さったのは岡崎さんだけ…。さびしー。支部でデータ集めができるかどうかの実験のつもりだったのですが、やっぱり無理かな。(編集部)

## 探鳥会報告 (2000年5~7月分)

## ●宮川・外城田川の河口をたずねて (伊勢市)

日 時: 5月3日 (水) 9:00~12:00

担 当: 世古口有司・橋本祐子

参加者: 22名

観察種: 25種

カワ・ダ イキ・コサキ・アオサキ・カガモ・ヒトリカガモ・トビ・カ  
 sp・キン・ハン・シロチドリ・メダ イトリ・トウネン・キアシキ・イ  
 シキ・チュウシヤクシキ・キンバト・ヒバリ・ツバメ・モズ・ツグミ・セツ  
 カ・カラヒワ・スズメ・ハシボソガラス

\*少しづつ環境が悪化しているが、河口全体とし  
 ては保たれている方だと思う。

## ●鈴鹿川中流探鳥会 (亀山市)

日 時: 5月4日 (木) 9:30~12:00

担 当: 榎原素・伊藤多紀子

参加者: 15名

観察種: 31種

カワ・カガモ・チュウサキ・ダ イキ・アオサキ・イカルチドリ・クサ  
 キ・イソギ・キアシキ・タシキ・キン・キンバト・トバト・カワ  
 ミ・コゲラ・ヒバリ・ツバメ・キセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・  
 ツグミ・セッカ・オオヨシキリ・ウグイス・ホシロ・カラヒワ・スズメ・ムク  
 トリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス

## ●第1土曜斎宮池探鳥会 (明和町)

日 時: 5月6日 (土) 9:00~11:30

担 当: 西村泉・山田昭子

参加者: 9名

観察種: 26種

アオサキ1・サハ1・ダ イキ1・カワ3・ツバメ3・キンバト2・  
 スズメウグイス2・チュウサキ2・ホシロ2・メジロ・エナガ・アマサキ  
 3・ヒヨドリ2・カワミ2・キアシキ1・モズ1・ヤマガラ・カラヒワ  
 トビ・キン・コゲラ・カイツブリ2・コサキ1・ハシボソガラス・ハシブ  
 トガラス2

\*斎宮池拡張工事により出る土砂で長池を埋め立  
 てる計画がある。一方で池を拡張し他方で池をつ  
 ぶす矛盾、本当に水の需要が増えているのなら長  
 池は残すべきだと思う。

## ●赤目エコリゾート探鳥会 (名張市)

日 時: 5月7日 (日) 10:00~14:00

担 当: 塗矢博一・田中豊成

参加者: 26名

観察種: 16種

シジュウカラ10・ヤマガラ6・ヒヨドリ20・キンバト6・コゲラ2・ホ  
 シロ8・イカル2・ウグイス30・エナガ2・モズ2・ツバメ10・カラヒワ  
 4・メジロ4・ヤブサメ1・ハシブトガラス・スズメ

## ●鈴鹿川河口探鳥会とテグス拾い (磯津町)

日 時: 5月14日 (日) 9:40~12:00

担 当: 高和義・濱中明代

参加者: 11名

観察種: 24種

カイツブリ・カワ・ダ イキ・コサキ・アオサキ・カガモ・ヒトリ  
 ガモ・シロチドリ・ハマシキ・キョウジョシキ・ソリハシキ・チュウシヤク  
 シキ・オオセグロカモ・コアシサシ・ヒバリ・ツバメ・ハクセキレイ・  
 セグロセキレイ・セッカ・ホシロ・カラヒワ・スズメ・ムクトリ・ハシブト  
 ガラス

\*回収テグス 88g x 13 = 1144m、釣り針 47本、  
 鉛 (錘) 22個。一般参加者がなく寂しかった。

## ●愛宕川・櫛田川河口探鳥会とテグス拾い (松阪市)

日 時: 5月14日 (日) 9:30~12:00

担 当: 谷本勢津雄・中村洋子

参加者: 11名

観察種: 32種

コアシサシ・キアシキ・アオアシキ・ソリハシキ・チュウシヤクシキ・  
 オソリハシキ・アオサキ・ダ イキ・コサキ・ダ イゼン・カワ・  
 ミサコ・オナガ・カガモ・ヒトリカガモ・カガモ・オオヨシキリ・セッカ・ケリ・  
 ツバメ・スズメ・ミヤコトリ・トビ・メダ イトリ・シロチドリ・トウネン・  
 オヨシカモ・チュウサキ・カイツブリ・ハクセキレイ・ムクトリ・ハン  
 コチドリ

\*参加会員はわずか8名、一般3名合計11名でテグ  
 ス回収。120g = 約1560m。

## ●大台ヶ原探鳥会 (大台ヶ原~和佐又山)

日 時: 5月20日~21日 (土、日)

担 当: 谷本勢津雄・中村洋子

雨のため中止

## ●青山高原探鳥会 (大山田村)

日 時: 5月28日 (日) 9:00~12:00

担 当: 平井正志・橋本富三

参加者: 9名

観察種: 21種

ホシロ・カラヒワ・ミササギ・キセキレイ・ウグイス・ヒヨドリ・コゲラ  
 ヤブサメ・アオサキ・ホトトギス・センダングサ・イソツツトリ・アオゲラ  
 シジュウカラ・ヒガラ・ヤマガラ・コシユケイ・オドリ・クツグミ・メジ  
 ロ・カラスsp

\*新緑で鳥の姿は見にくかったが、さえずりから  
 種類を聞き分けることをテーマとして実施した。

## ●海蔵川探鳥会 (四日市市)

日 時: 5月31日 (水) 10:00~12:00

担 当: 尾畑玲子・木村京子

雨のため中止

